

平成27年度

おかやま子ども応援事業報告書（抜）

矢掛高校学校支援地域本部

1 矢掛高校における持続発展可能性

矢掛町は、岡山県南西部中山間地域に位置し、高梁川の支流小田川の流域に開けた人口1万5千人の町で、江戸時代山陽道の宿場町として栄え、当時の本陣、脇本陣が今も旧姿をとどめる歴史と文化の町である。近年、過疎化・少子化が進行しており、定住促進・企業誘致等の取組も熱心に行っている。

矢掛高校は、明治35年に県内4番目の旧制中学校として開校された岡山県立矢掛中学校以来の伝統を受け継ぐ歴史ある学校である。平成20年からユネスコスクールとしてESD「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）」に取り組んでおり、平成23年には、第1回ユネスコスクールESD大賞高等学校賞を受賞している。

伝統に甘んじているだけでは持続発展はない。常に状況を把握分析し、的確に判断し、戦略的に行動することが求められる。また、自らの考えを持って、新しい社会秩序を作り上げていく、地球的な視野を持つ市民を育成するための教育に期待が寄せられている。

地球的な視野を保って地域の活動に参加すること、あるいは地域の地道な活動を通して身につけた手法や能力をより広い状況の中で発揮できるようになること。それが矢掛高校の目指すESDである。

未来を担う若者を健やかに育むためには、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子供たちを育む体制づくりを目指す必要がある。そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、地域住民等の参画による地域の実情に応じた取組を有機的に組み合わせて、子どもたちの



安心安全な活動場所を確保し学習や様々な体験・交流活動の機会を提供する放課後等支援、保護者等への学習機会の提供や相談対応などの家庭教育支援等、様々な教育支援活動を県立学校に対して行う必要がある。

また、これらの取組を通じて、子供たちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもが安心して暮らせる環境づくりを推進していきたい。

このような活動を支援するため、平成27年4月に矢掛高校学校支援地域本部を立ち上げた。地域の教育支援活動等の運営方法等を検討する運営委員会は、矢掛高校学校評議員を中心に構成し、教育支援活動等の企画や学校・家庭・地域の調整等を行うコーディネーターには、地域で積極的にこども支援活動を行っている矢掛小中高子ども連合（YKG60）の



代表井辻美緒氏に委嘱した。コーディネーターは、域内の教育支援活動等の連携についての調整の他、学校や学校関係者、地域の団体等との連絡調整、地域の協力者の確保・登録・配置、地域の実情に応じた定期的・継続的な活動プログラムの企画等を行うこととした。

平成18年に改正された教育基本法には「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の規定が新設された。「地域を支え 地域に支えられる学校」こそが、これを具現化するものである。過疎化・少子化が進む中山間部では、高校生は戦力である。地域に積極的に進出することで、地域が活性化するとともに高校生自身もキャリアを身につけ、自らの進路実現に資する。そのような「Win-Win の関係」を構築していくことが、地域を支える人材を育てるために最重要であると考えます。

生徒たちは積極的に町に飛びだして行く。大きな声であいさつができるようになってきた。地域の行事にはなくてはならない存在になってきた。過疎化・少子化が進む中山間部では、高校生は大きな戦力である。矢掛町の中だけではなく、小田川流域全体でこのような取組を広げることができたならと考えている。「自分の力で、したいこと・できること」を見つけ、地域貢献活動を通して、豊かな人生を送るためのきっかけの一つとなることを期待している。

2 矢掛小中高子ども連合 (YKG60)

矢掛高校学校支援地域本部の特徴的な活動の一つが矢掛小中高子ども連合 (YKG60) である。平成 25 年 9 月 21 日「第 36 回全国町並みゼミ倉敷大会・矢掛分科会」が矢掛町で開催され、矢掛小学校・矢掛中学校・矢掛高校の児童・生徒が大会のサポートをした。全国各地から 100 名以上の参加者があり、矢掛の町並み案内などをした。

全国町並みゼミでの矢掛小学校・矢掛中学校・矢掛高校の活動の様子は高く評価された。これをきっかけとして、3 校の有志をメンバーとする『やかげ 町づくりこども連合』を結成した。魅力的な町並みを作るために、こどもの視点からさまざまな提案を行ったり、行事に企画参加したりするプロジェクトを実施することを目的としていた。こども連合では、特に固定されたメンバー制をとらず、活動を行うたびに、メンバーを募集し活動する組織である。また、小学生の活動を中高校生が協力・支援したり、高校生が実施する活動に小学生が参加したり、中学生が行う活動に小学生・高校生がそれぞれの立場から協力したりすることを計画していた。最初は各校の教員が中心になり活動していたが、想いを同じくする民間の方も参加されるようになり、平成 26 年度からは、民間主導に移行し新たな展開を始めている。矢掛高校の卒業生も大学生に立場を変え、サポーターとして活動に加わるようになっている。



矢掛小中高こども連合ミーティング

矢掛小中高子ども連合の集会は矢掛高校の教室「ユネスコサロン フォレスト」で開催されることが

多い。地域の大人、大学生、高校生、中学生、小学生、幼児(最年少は 4 歳)が一堂に会し活動内容やグループを決める。ボランティア団体ではなく異年齢集団で地域の中で自分たちのやりたいことを自分たちで実行する団体である。

主役は子どもたち	サポートする大人たち
自分の好きなこと、得意なことを見つけ、自由に発揮する、自分たちで考える、行動する、異年齢同士で協力する、自分たちが楽しめることを大切にする	サポートする上で、放牧を意識し。手を出さず、意見補追いつけず子どもを主体にする。子どもたちの柔軟な発想と可能性を信じ抜く。

平成 27 年度の主な活動を紹介する。

(1) 矢掛再発見楽習会

8月22日矢掛再発見楽習会の発表会が、やかげ文化センターで開催された。前年度から地域を見つめ直す「高校生がつくるツアープラン」の活動を続けてきたが、一步踏み込んで、小中学生にも同じことをやらせてみて、高校生は指導的な位置で動いてみようというアイデアで活動を始めた。

新 月 2015年(平成27年)8月21日 金曜日 笠井

旧矢掛本陣でボランティアガイドから説明を聞く子ども



矢掛町の小、中、高校生は、「同世代に町の魅力を伝えたい」と史跡やグルメなど、子どもが楽しめるツアーを企画している。22日午後1時から、やかげ文化センター(矢掛町矢掛)で発表する予定。
(平田亜沙美)

町教委が、子ども目線で、ってもらおうと今年初めて町の魅力を考え、愛着を持ち取り組んでいる「やかげ再発見楽習会」の一環。小中高生など、異なる世代同士の交流にもつなげたい考え。

矢掛の魅力 子ども目線で

小、中、高生 ツアー企画あす発表

8月に入って子どもたちは、同世代に薦めたい町内の食べ物や場所などを協議。国重要文化財・旧矢掛本陣(矢掛町矢掛)、やかげ郷土美術館(同所)、町総合運動公園(同所)などを中心に巡る3コースを計画した。

現地視察も行き、参加した約20人がそれぞれ3コースに分かれて名所や和菓子店などを訪問。旧矢掛本陣では、「江戸時代は宿場だった」など、ボランティアガイドの説明を熱心に聞き、メモを取った。ユズを使った町伝統の餅菓子・ゆべしやせんべいを扱う店も訪れ、実際に味わいながら、作り方や種類などを学んだ。

中川小4年佐藤史弥君は「本陣やゆべしなど、町に古くから伝わるものをみんなに知ってほしい」と話している。

(2) やかっぱーかき氷

8月23日(日)に開催された「宿場町矢掛の日曜朝市」(やかげ町家交流館主催)に、YKG60のメンバーが企画して出展したのは「やかっぱーかき氷」。他にも田尻盛果園とコラボした「モモジュース」、矢掛家具(テンペ)・イシコ(バンズ)とコラボした「コロッケバーガー」、清邦庵とコラボした「やかっぱー大福」。自分たちのアイデアを地域の大人とコラボして作ることに意義があると考え、地産地消を意識したラインナップである。「やかっぱーかき氷」も、町家交流館とコラボして開発した。「やかっぱーかき氷」のアイデアは昨年度の小学生の思いつき。中学生が「そんなのできない」という中で小学生の熱意に打たれた高校生が一肌脱ぎ、コンテ・試作・試食・ライセンス取得・原価計算・宣伝・販売などを手がけた。



(3) 高校生の遠足 ～大学探訪～

11月7日、岡山県立大学に「高校生の遠足」を実施した。この日高梁川流域の淡水魚観察会が開催されており、室貴由輝サポーターが講師であった高校生が興味をもってYKG60として参加しようということになった。自然に恵まれたキャンパス内には十二ヶ郷用水が流れ、貴重な淡水魚が生育している。高梁川に生息する淡水魚の生息特性を学び、豊富な種類の淡水魚を観察し、その種を保存する意義についても学んだ。当日は大学祭でもあり、すがすがしい1日を大学のキャンパスで過ごした。



高校生の遠足 ～大学探訪～

センター入試の試験会場になる可能性の高い岡山県立大学に「高校生の遠足」しませんか。この日岡山県立大学では、高梁川流域の淡水魚観察会が開催されます。講師はみなさんご存じの室貴由輝先生です。岡山県立大学の自然に恵まれたキャンパス内には十二ヶ郷用水が流れ、スイゲンゼニタナゴをはじめ貴重な淡水魚が生育しています。高梁川に生息する淡水魚の生息特性を学び、豊富な種類の淡水魚を観察し、その種を保存する意義についても学びます。

それもありますが、気分は遠足。大学の先生が校内を案内してくれるそうです。秋のすがすがしい1日を大学のキャンパスで過ごして見ませんか。

- 【開催日時】 平成27年11月7日(土) 10:00～14:00
小雨/実施 雨/次週日曜日に延期
- 【開催場所】 岡山県立大学キャンパス(岡山県総社市窪木111)
- 【集合場所】 吉備線服部駅 9:15 集合
(井原 7:50—矢掛 8:16—8:35 清音(乗換)8:45—8:49 総社(乗換)9:02—9:12 服部)
(服部 14:21—14:29 総社(乗換)15:05—15:31 矢掛 15:44—9:12 井原) 帰りは総社から井原線直通
- 【定員】 20名(矢掛高校1・2年生対象)
- 【服装】 長袖 長ズボン 歩きやすい靴 (帽子)
- 【持ち物】 カバンorリュック タオル 昼食 飲物 おやつ
- 【主催】 やかげ小中高子ども連合(YKG60)
- 【費用】 無料(服部までの交通費は自己負担・イベント保険に加入します。)
- 【緊急連絡】 090-9508-7728

高梁川上・中流域の環境保全と暮らしを学び・体験しよう!
～高梁川流域の淡水魚観察～

平成27年11月07日(土) 10:00～14:00 [タイムスケジュール]

10:00 集合・開会式

10:15 高梁川流域の環境保全についての講話

11:00 淡水魚生息観察

13:00 昼食

13:20 散策

14:00 閉会式

受付開始:平成27年10月26日(日) 定員:30名[小学生(保護者同伴)～大人]

高梁川に生息する淡水魚の生息特性を学び、豊富な種類の淡水魚を観察する。
その種を保存する意義についても学びます。

場所:岡山県立大学キャンパス内講堂集合 当日吉備線服部駅利用
服装:長袖・長ズボン・帽子 小雨/実施 雨/次週日曜日に延期

(4) 限界集落山ノ上地区における干柿プロジェクト

矢掛町山ノ上地区は高齢化が進む限界集落である。200m～250mと標高が高いため日当たりがよく、秋に霧が少ないという干し柿をつくるには最適であったことから古くから干し柿の生産が盛ん行われていた。現在も11月ごろになると山ノ上では家々の軒先に渋柿をつるす光景が見られる。簾のように干し柿が吊るされた光景は、のどかな農村の風景としてよく知られているが、現在ではビニールハウスを利用して乾燥させるのが主流となっている。

矢掛高校はESDの取組の柱の一つとしてこの山の上部を取り上げている。幅広い世代に、山ノ上地区の魅力を伝えるとともに、中山間地域が抱える問題を把握し、山ノ上をその問題の解決のための活動の場にするというものである。矢掛高校では、山ノ上名物の干し柿作りのボランティアを継続してきた。また、干し柿の加工品などをメニューとした「雲の上カフェ」も企画した。高校生にとって、ここから学ぶことは山ほどある。

矢掛高校の生徒が山ノ上に最初にはいったのが6年前耕作放棄地の解消、元気集落、

商品開発などに大学生主導で活動した。入り始めた頃は、地域の方々もぎこちなく、なかなか連携という雰囲気ではなかった。年々山ノ上に笑顔があふれ、高校生と一緒に食事をし、いろいろ話ができるようになっていったのは、地域の方々が地域の宝物に気付き、自分たちが楽しむことを始めたからであろう。今では干し柿を海外に出荷し、最先端の加工施設ができるなど、地域活性化のモデルになるほどである。



大学生が撤退後、数年間は高校生だけで行っていたが平成25年度からは中学生も参加するようになった。そして、今年度からはYKG60として小学生も参加することになった。11月7日には、20名を超えるメンバーが干し柿づくり、二次製品の開発のお手伝いをさせて頂いた。

(5) 活動の広報・周知

5月16日、福岡県立社会教育総合センターで開催される第34回生涯教育実践研究交流会で、井辻美緒コーディネーターが「YKG60(矢掛小中高こども連合)の企画－発想－実践のサイクル」というテーマで実践報告をおこなった。

井辻美緒コーディネーターは次のようなコメントを残している。「去年一年間の活動を元にYKG60が生まれた経緯や、活動内容、活動に参加した人たちの変化、関わり方、今後の課題などを中心によりたくさんの方にYKG60を知っていただけたらと思っています。そして、様々な立場の方と交流し、つながりけたらいいなとおもっています。視野を広げ、サポート

する立場としてより柔軟に対応できるよう、いろいろと学んでゆきたいです(*´▽`)素晴らしいチャンスありがとうございます！！」

8月12日、第3回岡山教育支援活動メニューフェアでブース展示を行った。井辻コーディネーターと井上町おこし協力隊員が発表した。おかやま教育支援活動メニューフェアの趣旨は、「子ども応援人材バンク」に登録している企業・団体等支援者と県内教職員等教育

生涯教育・生涯学習の実践が集う
中国・四国・九州地区

生涯教育 第34回 実践研究交流会

日時
平成27年 **5月16日(土)・17日(日)**
(情報交換会 5月15日(金))

場所
福岡県立社会教育総合センター
(福岡県糟屋郡雑栗町大字金出3350-2)
TEL/092-947-3512 FAX/092-947-8029

日程・プログラム

時間	15:00-17:00	17:00-18:00	18:00-19:00	19:00-20:00	20:00-21:00	21:00-22:00
内容	情報交換会	受付	開会式	主催発表①	昼食	主催発表②
担当	井辻美緒	井辻美緒	井辻美緒	井辻美緒	井辻美緒	井辻美緒
備考	15:00-17:00 情報交換会 17:00-18:00 受付 18:00-19:00 開会式 19:00-20:00 主催発表① 20:00-21:00 昼食 21:00-22:00 主催発表②					

主催 福岡県教育委員会・日本生涯教育学会九州支部
主 催 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会第34回大会実行委員会
福岡県立社会教育総合センター

関係者が一堂に会し、支援内容についての情報交換を通して相互理解を促すとともに、学校の教育課題解決に向けた地域連携のあり方等について、理解が深まるようにするというものであり、YKG60の活動は高く評価された。

8月18日には、第3回おかやま環境教育ミーティングが岡山コンベンションセンターで開催され、ブース展示で参加し、環境問題について高校生メンバーが発表した。

8月29日には、いかさ田舎カレッジ2015第一回講座が矢掛屋で開催され、ゲストスピーカーとして、元YKG60で矢掛高校卒業生である高知大学地域協働学部1年の竹内晴加氏がYKG60の活動についてプレゼンテーションした。この会には、地域系学部への進学を目指す矢掛高校生も多数参加し、学ばせていただいた。参加者は次のような感想を残している。



「YKGの活動報告についてのプレゼン。今

は高知大の地域協働学部1年生。しっかり活動をじた子供が、大学で専門的に勉強し、また地域で活かされる。素晴らしい。」「地元の高校生も参加してて、色々お話を聞かせてもらいました。もう、感動!! 何なんだ!! この地域の若者たちはっ!! 18,19の若者が、自分の進路や地域について、自分の言葉で真剣に語る。マジでスゲー。」

11月6日、やかげ文化センターで開催された備中地区社会教育実践研究交流会第2分科会で、第2分科会「地域と学校の協働による人づくり」では「ふるさとで学び、ふるさとを創る子どもをめざして～YKG60の挑戦～」ということ



で室貴由輝YKG60サポーターと井辻美緒矢掛高校支援コーディネーターが発表した。

12月県議会では、一般質問において矢掛小中高こども連合について質問されている。